

本日14日学長選出阻止の論争

ツ・キャンパス論による学内一斉化を許さないぞ

6月14日

正副委員長長の脱落をのりこえ
学長選出阻止行動に起て！

文学部自治会常任委員会

筑波移転に反対し、教育大に新たな秩序を建設せんとは努力して居る全ての学友諸君！我々文学部自治会常任委員会は、昨日の文学部学生大会へ成立せよとの絶望を期りかにすると同様に、本日学長選出阻止行動を呼びかける。

正副委員長復業もや否や

昨日の学生大会の総括を期らなにする前に、まず述べておかなければならぬことは、一昨日の成立した学生大会において、学長選出阻止の非に否決された正副委員長復業が、何らの自己批判もないうままに再度同じ内容で上程されたことである。我々は、学生大会の決定すら無視し、自らのレフト的方針を押しつける正副委員長を明確に批判しなければならぬ。

昨日の学生大会は、なによりも一昨日の学生大会において大衆的に可決された常任委員提案を基調に、本日14日の行動方針を決定する場としてあつたのである。しかし、我々は例によつて評議会段階での三輪体制樹立を自己目的化し、主権的に筑波と学長選出阻止を切り離し、更に、学生主体の立場の合意を放棄し「民主的」教授陣を押し詰る主張した正副委員長復業の諸君と、ツ・キャンパス論に一本化されようとする筑波移転の現状に賛成し、自らの主体的な意志を現在の理任の大学自治に正当な反映させるために学長選出阻止を主張する、ウラス討論に支えられた戦斗的学友との思ひ合わぬ形のものに終始した。学生大会は成立せずへ出席シミー、自委員長の生集會に終り、この自体は我々も取り組みの弱さを自己批判しなければならぬ。我々は、我々の提案は可決へ賛成一三三、反対八二、保留一三三と、正副委員長復業は賛成七九、反対一三六、保留三三とされた。採決の我々は、生集會に最後まで参加した学友に、本日の責任ある方針を提起しようとした。我々等は、調整を行なうとした。しかし、他くまで破壊的な彼らは、中で討論を「否し」、我々の方針を提げ得る結果になつてしまつたわけである。我々は他くまで一昨年成立した学生大会において決定した事項を堅持し、更に昨日の生集會での決定、方向を踏守り、本日の行動を提起したい。

へ再度学長選出阻止の意思を確認しよう

現在学長選出阻止の学友部執行部などから、我々の学長選出への対応に對して、何となく内容が「批判」が投げかけられている。確かに我々は妥協と間取り引きの内容について、例として、教授会の評議會への復帰、或いは調査費計上の問題について若干の認識の相違があつたことについては認めざるを得ない。しかし、文・教授陣中ひりミの石、三輪光雄支持があるという事実、明確に間取り引きが存在していることを物議を醸しているし、それらの教授が学生と文・教授団との団交に強んど差を見せず、同じ意見でも発言せず、教授相互の意見の相違を明確にしなさい事実、教授会内部の食糧分派を物議を醸している。

更に林派にしろとところが、その推せん者は何ら筑波に對する政策は一致点を見出すことができず、「手つづき民主主義」のみ一致点を見出している。しかし、我々も今回の選挙は単に「反三輪」的学長が当選すればこと足りるとするのでは済まないと、今回の選挙は明らかに筑波移転との関わり合いの中で抱えられなければならない。その結果に對する政策は一切発表しない、いやでさういふという現象、このことは選挙場であるとして何であらう得るだろうか。

へウウへっどく

△(6)声明をかちとった学生の力を再度この学長選において顕在化させよう。
 学友諸君、現在のこの方針に用する対立の底流には、現在の大学の自治、教授会自治に対する基本的な見解の相違があると考えらる。したがって我々は、昨年の筑波のストライキ斗争の総花の中の一つ、その基本的な見解を明らかにしたい。

我々は、昨年六月、6/10未定が既存の大学自治の最終的崩壊であると考えた。すなわち、その評議会決定、文学部を除く4学部が承認したという事態をもって、したがって我々は、その大学の秩序を学生の主体的対応によって再建するのだ、そのような意志をもってストライキ体制に入つたのだ。そして、その大塚内スト体制を背景に、その審議を防害してまで文科教授会団文を要求し、その結果我々は、あの6/21声明をからとつたのだということを再度想起してほしい。我々は、今回の学長選そのものの犯罪性と同時に、現在の崩壊した大学自治そのものをも革新していかねばならぬのである。

さうにもう一度確認しておかねばならぬことは、今回の学長選と筑波移転との連関性についてである。我々が、ここで確認すべきなのは、たとえ林候補が当選したとしても、それで問題が解決するということではないといふ美だ。即ち、我々学生と、教授会段階の筑波への対応が根本的に違つ、つまり、林学長が実現したとしても、その支持基盤はツイキャンパスであり、それにまともな差後性が入るといふことである。ここで我々は、ツイキャンパス説は文部省ではのまないかうといふ并解を断じて許してはならぬのである。即ち、文部省が認めるか否かの前に、その可能性も厳として存在しているか、それによりまどなること自体、我々の筑波への見解が反映されていぬことの結果なのだ。したがって、我々は、いつかある日突然にツイキャンパス説の評議会未定を押しつけられるかを知れないのだ。現在の大学の自治種としてのものは、我々がそれを手エックしする保障は何一つないので、そしてまた評議会の「裏切り」を責め、6/10未定撤回斗争の希少再生産をくりかえさねばならぬのである。

△学長選阻止は我々の最後の手段である

このような学長選の危険な背景と、それに何ら関与できない現在の学生のおかれてはいる不当な立場を考へるならば、我々は断固としてこれを阻止し、その過程で筑波に對する我々の見解、ツイキャンパス説を貫徹させてゆくことではないか、そして教育大の自治の革新を我々自身の手でやらうと行こうではないか。

執行部系諸君の卑劣な中傷と分裂策動が行われるであろう。しかしながら、学友諸君は、あくまで学生大の未定を堅持し、我々常任委員会の指導の下に行動されることを訴えたいと思つ。

執行部の斗争放棄をのりこえ、この妥協と撤回ひき、政策不在、学生不在の学長選を断固として阻止し、新たな組織を移転阻止の展望と、大学自治の改革を目前としてやおうではないか。

△スケジュール

8時30分 本館前集会

クレス討論

1時~2時30分

二次選挙

これに對して主体的力量に
 みあつた最大限の阻止行動

△学長選一次選挙結果

三輪	五四八
林	五三二
西川	六五
朝永	一〇
梅根	五

△スローガン

学生不在、ツイキャンパス論による筑波一本化の
 学長選阻止、筑波移転阻止、調査費計上阻止、
 学生の拒否権獲得、二者協議会確立